

Semtemberth 2019



BGN UNESCO NEWS

Bunka Gakuen Nagano Jr. & Sr. High School

No 4

See you again !! Boros Dorina
(ハンガリー交換留学生)



6月から1か月半、ハンガリーから交換留学に来ていたBoros Dorinaさん(Rina)が先日帰国しました。自分の将来のために何が必要か考え、勉強に積極的に取り組む姿勢に、大きな刺激を受けました。終業式の際には、日本語で素晴らしいスピーチをしてもらいました。下に、彼女のスピーチを紹介します。

Hello everyone!

I'm Boros Dorina from Hungary. I came here a month ago with no Japanese knowledge. I can say in this month of school I learned a lot of things, got wonderful memories and met amazing people.

I'm very happy and grateful to everyone for your kindness. I had a wonderful month. Thank you everyone.

皆さんこんにちは！

私はハンガリー出身のボロス・ドリーナです。1か月前、何も日本語の知識がないまま、私は日本に来ました。この1か月、沢山のことを学び、素晴らしい思い出を手に入れました。そして素敵な人たちの出会いがありました。

私は今とても幸せです。皆さんの優しさ感謝しています。この1か月は素晴らしい時間でした。皆さん、ありがとうございました。

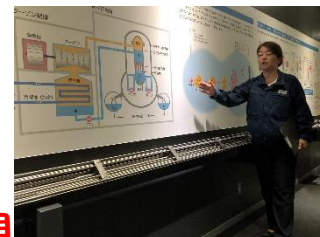


インターアクト部 東北被災地研修

8月20日～22日に東北被災地研修で、福島県を訪れました。地震や津波の天災被害だけでなく、福島第一原発事故をはじめとした人災によって、故郷を突然離れなければならず、今も元通りの生活を送っていない方は沢山います。全校の皆さんに、福島で感じたことを共有したいと思います。

1日目

東京電力廃炉資料館にて、東電職員の方からお話をお聞きました。事故の経緯はもちろん、廃炉に向けて今も最前線の現場で働いている方の声も知ることができました。あの事故が起きるまで、原発は安全なものだと信じ切っていた職員が多かったそうです。



2日目・3日目



福島第一原発から20km圏内にある富岡町にて語り部の方と一緒に現地を見て回りました。震度6の地震に見舞われ、海岸沿いに位置していた町は津波に飲み込まれたそうです。それだけでなく、原発事故により避難を余儀なくされ、人口一千人ほどの隣町に六千人もの町民が避難し、避難所は異常な状況だったそうです。避難所での暮らしによって、命を落とす方が相次ぎ、今も震災関連死が後を絶ちません。町を見渡すと、「この先帰宅困難区域につき通行止め」という看板とバリケードが至る所にあります。私たちが想像する「町」とはあまりにもかけ離れている姿でした。

汚染された土壌を保管する、中間貯蔵施設を見学しました。放射線量を測り、除染作業が進んでいることを実感できました。参加した生徒の声を紹介します。「除染作業は地味な作業に見えました。しかし、とても重い土の塊を、夏の強い日差しが照り付ける中、作業されている姿を見ました。これがあと何年続くのかと思うと、決して簡単な仕事ではないと思いました。」

「私たちが語り部になって、福島の今を伝えることが復興につながると思います。」研修最後にはこんな感想を言う生徒がいました。この研修を糧に、インターアクト部として何ができるか考え、実行していきます。